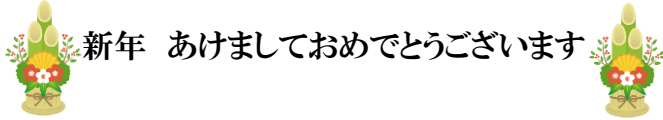


時を守り
場を清め
礼を尽くす

神辺中だより



11 令和6年1月
申辺中学校長



新年 あけましておめでとうございます

新年がスタートし気持ちも新たに3学期を迎えました。

3学期始業式では、まさに新年の初日に、能登半島地震が発生したことに触れ、震災により普通のお正月を迎えることができなくなるところか、多くの方が被災され、亡くなられた方々へ哀悼の意を込め、黙祷を捧げました。自然災害は時を選ばず、久しぶりに会っていた家族の団欒までも奪われてしまうことに、私たち教職員もあらためて生徒の命を預かる責任を考えさせられたところです。

また、式辞の中では「**命は時間**」であることを話しました。時間は止まらない。一瞬一瞬の積み重ねであり、止まらない時間を使っている。それは、命を使っているということと同じである。家族や友達、学校での生活、習い事等々、1日の生活の大半が誰かとともに生活しているわけで、それは、その人の命も使っているという視点をもってもらいたい。したがって、時間に遅れるとか期限を守らないというのはもってのほか、という感覚になってほしい。「**命は時間**」という言葉、自分にとってどういう意味になるのかを考え、具体的な行動につなげていこうと話しました。

また、この度の震災を受け、自分や人の命を守る行動（交通ルール、ヘルメット着用、傷つける言葉や行動はとらない等）をし続けてほしいことも話をしました。

新年を迎えご家庭でも「1年の抱負」的な会話をされたことでしょうか。すべての人たちにとって、「より良い1年」となるよう抱負を達成しましょう。

生徒会も新体制になりました

生徒会スローガン

『HOP STEP JUMP
～自分を磨け～』

始業式後、新しい生徒会役員の紹介があり、生徒会も2024年がスタートしました。

年末の選挙にて会長、副会長が決定し、執行委員は定数を定めない規定から生徒会活動に意欲を示した16名と合わせて19名でこれから1年活動することになりました。

先日、

生徒会長 藤本亜里紗さん

副会長 奥田凧彩さん

副会長 阿部陽香さん



の3名が、「今年の生徒会スローガンを説明させてください」と、校長室に訪ねてきました。

その時、ちょっとしたハプニングがあり、たまたま福山市教育委員会から三好教育長さんと指導主事の先生の2名が来校されており、一緒にその説明を聞くことになりました。

「神辺中学校をよりよくしていきたい、みんなで成長できる学校にしていきたい」という思いからHOP…様々なことに挑戦し

STEP…うまくいなくても立ち止まって深く考えJUMP…考えたことを基によりよく突き進んでいくという意味でそこスローガンにしたことを熱く語ってくれました。

校長からは「その気持ちや考え方を1年間持ち続け、最後までやり遂げてほしい」と話しました。

さらに、三好教育長さんからも「いろいろな挑戦をし、是非それを達成してほしい、頑張ってください」とエールをいただきました。

その3名の会長、副会長を紹介します

生徒会長 藤本亜里紗

『私の2024年の抱負は、今の自分をさらにレベルアップすることです。学習面と部活動面、その他でも新しいことに挑戦すると上手いかなかったとしても、すごくいい経験になり、そこで見つけることのできた課題を解決して、今の自分を超越することができると思います。』

生徒会でも一気に学校を今よりももっとよく変えることは難しいと思うけど、自分の最善を尽くして少しずつ今よりももっとみんなが楽しく過ごせるような学校にしていきます。

この1年は最初から何もせず諦めることは絶対に無しで、すべてのことに全力で挑戦します。』

生徒会副会長 奥田凧彩

『私は皆さんが楽しいと思える学校生活にしていきたいです。学校は勉強をする場所だけでなく、友達とたくさんのおもいでを作る場所でもあります。だから皆さんには楽しい思い出をたくさん作ってほしいです！

そのためには、今までにない行事を行ったり、生徒の皆さんから「〇〇してみたい」等の意見をもらった時には、実行してみたり等、学校全体を盛り上げていこうと思っています。

生徒会だけではなく、神辺中学校の皆さんで、今よりももっと明るくて、楽しくて、笑顔あふれる学校にしていきたいので、ご協力お願いします！』

副会長 阿部陽香

『私が掲げた公約は「意見あふれる学校」でした。学校についての課題点を挙げ改善していける、一人ひとりが意見を持ち、より自分の学びを深められることを目指してこの公約にしました。

私は、一部の人の意見ではなく、みんなの意見をみんなで聞くことが大切だと思っています。意見を言う中で、また聞く中で「自分たち」が変わり、「学校が変わる」のだと思います。そしてそれが、「学び深める」ことにつながるのだと考えています。

私は、学校生活を送る人のたくさんの意見が聞けるような、多くの方が声を出せる生徒会にしていきたいです。そもそも、なぜ私が多くの意見を求めるのかというと、自分の意見を持たずに、答えを待つ人を多く見かけるからです。これは授業に限ったことではありません。学校の課題や身の回りのことについて、他人に任せて

考えることをやめたり、自分の意見を捨てたりすることも含みます。

しかし、これは個人の努力の問題ではなく、小さな声や声なき声を集めようとする時間や場がなかった環境の問題でもあると思うのです。

例えば「校則」についてです。

校則が、私たち自身が安心して過ごすためのものならば、私たちの手によって変えていってよいのだと思います。校則についてアンケートを取るなどして、本当に必要かどうか考える機会をつくりたいです。そして、それをきっかけに、他の課題へも目を向け、声に出せるようになっていきたいと思います。

その中で私が目指したいのは、「意見」を「言葉」にしてもらうことです。意見が言える人の大きな声だけでなく、前に出てこない「小さな声」や「声なき声」も集めていきたいです。「一部」ではなく「私たち生徒」が思い描く学校をつくっていきます。

